尾張・知多

●尾張支社　一宮
—29　アステ
102号　058
FAX　058

●瀬戸支局　瀬戸
ツカモトビル
050

自らの手で新市場創出を

協和工業 鬼頭社長 星城大で経営哲学講義

「マーケットがないからこそ、みずからマーケットをつくる」。冷間鍛造でユニバーサルジョイントを製造する協和工業（本社大府市横根町坊主山1ノ31）の鬼頭佑治社長がこのほど、星城大学（東海市富貴ノ台2ノ172）で特別講師として教壇に立ち、同大の学生たちに、ものづくりや経営哲学などについての自論を披露した。

（東海）

鬼頭社長が講義したのは経営学部の三年生以上を対象にした「投資実践セミナー」。社会の第一線で活躍する企業関係者らが特別講師として協力し、現実の経済社会の姿や企業経営幹部の生の声などを学生に伝えるのが狙い。鬼頭社長は地元でがんばっている優良企業の一つとして、集まった約百五十人の学生を前に講義した。

協和工業は、自動車用のステアリングジョイントや農業機械などのユニバーサルジョイントを、独自手法の冷間鍛造で製造するジョイント専業メーカー。ステアリングジョイントなどを中心に売上高を伸ばしており、今期は三十三億円の売上高を見込んでいる。

鬼頭社長はまず、創業者が画期的な冷間鍛造の製造方法を開発し、それまでは壊れやすく消耗品扱いだったジョイントを、簡単には壊れない機能部品として確立した経緯を説明した。

消耗品ということもあり用途が限定され、当初は農業用機械向けが多くて、需給が安定していなかったジョイント部品をもっと積極的に使ってもらうため、輸送機械や建築・土木機械向けなどにも、新しいジョイントの使い方を提案。ジョイント市場を拡大するため、みずから、新たな市場を創出してきた過程を解説した。

さらに新たなジョイント市場を開拓するため、自動車向けステアリングジョイントに挑戦を始めたときの状況に触れ、「当時は採算が合わないため撤退する部品メーカーも多かったが、逆にみんなやめていくからチャンスがある」と指摘。

数年間、徹底的に改良を重ねて、圧倒的に高い品質とコストパフォーマンスを持つ冷間鍛造のステアリングジョイントを開発した。トヨタ自動車が系列を超えた部品調達を始めた時期でもあり、プリウスやオーパ、さらにはトヨタ看板車種のカローラにも採用されるなど、世界の自動車市場に食い込み始めたことを説明した。

鬼頭社長は「自分たちの都合ではなく、まずはお客様のためになるかどうかが基本。ジョイントで他社が新規参入できない強さを追求していく」と強調。自分たちのものづくりに誇りを持ち、常にその内容を高めていく不断の努力を学生たちに訴えた。

集まった学生たちに、ものづくりについて語る鬼頭佑治社長